



障害福祉サービスのスクリーニングにおけるWHO-DAS2.0の活用可能性の検討 — 就労継続支援B型と生活介護の差異に着目して

松本将八¹、木下隆志²、大冨賀政昭³、筒井孝子²

1 NPO法人こぐまくらぶ、2 兵庫県立大学大学院、3 国立保健医療科学院

■背景及び目的

現在、NPO法人こぐまくらぶでは、ICFに基づきWHOが開発した参加と活動を定量的に把握できるアセスメントツールであるWHO-DAS2.0 36項目版をサービス利用者全員に実施し、個別支援計画の立案やモニタリングに活用している。

今回、WHO-DAS2.0の評価結果の比較を通して、サービス利用種別ごとの活動と参加の程度の差異を明らかにするとともに、WHO-DAS2.0の情報を障害福祉サービスのスクリーニングに活用できるか検討を行った。

■方法

施設職員が評価を行った（代理人評価）就労継続支援B型利用者38名と生活介護利用者68名分のWHO-DAS2.0 36項目版の評価結果を分析した。

属性およびWHO-DAS2.0得点について、就労継続支援B型群と生活介護群で差異があるかどうか、統計的検定を行った。

また、サービス種別（就労継続支援B型と生活介護）を目的変数、WHO-DAS2.0の6つの領域別得点を説明変数とした判別分析を実施し、利用サービスの判別（予測）を行った。

■結果および考察

属性は表1のようになった。また、WHO-DAS2.0の回答傾向および得点を就労支援B型群と生活介護群で比較したところ、総得点及び「D4他者との交流」「D6社会への参加」以外の領域別得点のスコアが生活介護のほうが高かった（図1、表2）。

さらに、判別分析を実施したところ、「D4他者との交流」の領域別得点のみ就労支援B型サービス利用の予測に影響していることが分かった（表3）。

■考察及び結論

障害者総合支援法における「常時介護を要する者」を対象とした事業としては、重度訪問介護、行動援護、療養介護、生活介護、重度障害者等包括支援などがある。

これらの基準としては障害支援区分が用いられているが、この障害支援区分は介護給付利用者のみを実施され、訓練等給付利用者には実施されていない。このため、サービス利用に際しての個別支援計画策定にあたっては、別のアセスメントが必要になるが、現在標準的なツールは国内に存在していない。

本研究の結果、就労支援B型群と生活介護群にWHO-DAS2.0の得点の差異が認められ、サービス利用の適性判断等に活用できる可能性が示唆された。

今後は、当法人で収集しているWHO-DAS2.0の評価結果と支援の関係性を分析し、さらなる活用方法等について検討を進めたいと考えている。

表1 基本属性

		全体		就労支援B				生活介護				P値 (χ ² 検定)
		N	%	N	%	N	%	N	%			
性別	男性	64	60.40%	18	47.40%	46	67.60%	0.04				
	女性	42	39.60%	20	52.60%	22	32.40%					
年齢	10歳台	16	15.10%	3	7.50%	13	19.10%	0.06				
	20歳台	56	52.80%	16	42.10%	40	58.80%					
	30歳台	11	10.40%	6	15.80%	5	7.40%					
	40歳台	12	11.30%	7	18.40%	5	7.40%					
	50歳台	10	9.40%	6	15.80%	4	5.90%					
	60歳台	1	0.90%	0	0.00%	1	1.50%					
サービス形態	就労支援Bのみ	31	29.20%	31	81.60%	0	0.00%	0.00				
	GHのみ	5	4.70%	5	13.20%	0	0.00%					
	就労支援BとGH	2	1.90%	2	5.30%	0	0.00%					
	生活介護	67	63.20%	0	0.00%	67	98.50%					
	生活介護とGH	1	0.90%	0	0.00%	1	1.50%					
主な障がい種別	身体	8	7.50%	4	10.50%	4	5.90%	0.01				
	知的	80	75.50%	29	76.30%	51	75.00%					
	精神	7	6.60%	5	13.20%	2	2.90%					
	身体知的重複	11	10.40%	0	0.00%	11	16.20%					
障がい等級	A・1級	77	73.30%	11	29.70%	66	97.10%	0.00				
	B1・2級	19	18.10%	18	48.60%	1	1.50%					
	B2・3級	9	8.60%	8	21.60%	1	1.50%					

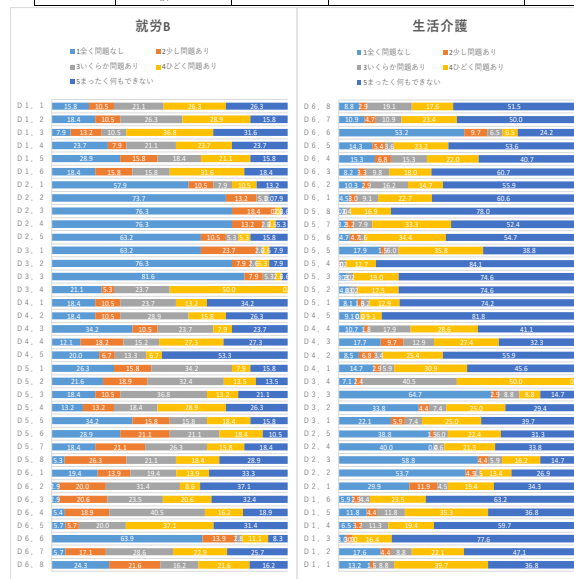


図1 回答傾向の比較

表2 得点の比較

	就労支援B (N=38)			生活介護 (N=68)			P値 (T検定)
	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値	標準偏差	標準誤差	
総得点	95.3	25.9	4.2	124.6	26.5	3.2	0.00
領域別スコア							
D1認知	19.3	6.8	1.1	24.2	5.4	0.7	0.00
D2可動性	8.5	5.1	0.8	13.8	7.5	0.9	0.00
D3セルフケア	6.3	3.5	0.6	10.1	5.3	0.6	0.00
D4他者との交流	13.7	6.1	1.0	15.3	5.5	0.7	0.19
D5日常生活	23.5	8.5	1.4	32.8	9.5	1.1	0.00
D6社会への参加	24.0	8.7	1.4	28.3	8.0	1.0	0.11
基準化得点	53.0	14.4	2.3	69.2	14.7	1.8	0.00

表3 判別分析の結果

説明変数	標準化された正準判別関数係数	グループ重心の関数	
		関数	係数
D1認知	0.348	就労支援B	-0.838
D2可動性	0.227	生活介護	0.468
D3セルフケア	0.278	判別の中率	77.4%
D4他者との交流	-0.337		
D5日常生活	0.625		
D6社会への参加	0.146		